

議事概要

会議の名称	令和8年度第1回三田市総合教育会議
開催の日時	令和8年8月6日(木)17時00分～18時10分
開催の場所	三田市役所2号庁舎2階 2201会議室
出席した委員の氏名	田村克也市長、加嶋幸彦教育長、大野裕己教育委員、三木尚美教育委員、ルーベツシュ裕子教育委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 山本学校教育部長、井上学校教育部次長、上月教育総務課長、横溝こども未来部長、上島こども未来部次長、神影幼児教育振興課長、近江こども政策課長、堂本こども政策課係長、高木こども政策課主任
傍聴人の人数	0名
議題	(1)三田市立幼稚園の今後のあり方の検討について
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	本日の次第、座席表、出席者名簿 【資料1】三田市立幼稚園の今後のあり方の検討について
連絡先	こども未来部 こども政策課 電話(079)559-5079

会議経過

1. 開会

【上島次長の司会により開会、配付資料の確認等】

【傍聴者0名】

【議事進行を田村市長に交代】

【市長挨拶】

2. 議事

(1)三田市立幼稚園の今後のあり方の検討について

(神影課長から説明)… 資料1

田村市長：ご質問、ご意見ありましたらよろしくお願いします。

加嶋教育長：松が丘幼稚園は公立の認定こども園へ、三輪幼稚園は民間のこども園も想定しています。民間事業者を三輪幼稚園に活用する理由を可能な範囲でお聞かせください。また、民間の場合、公設民営化にするのか、完全に民間の幼稚園になるのかもお聞かせください。

神影課長：民間事業者への移行の大きな反対理由に、民間になると今までの取り組みが全てなくなるのではないかと不安があります。公立、民間の違いはありますが、民間も(公立が実施している)取り組みや連携を大切にしている事業者が多く、公立が非常に苦慮している人員確保についても、民間事業者の採用や運営のノウハウを活用できると考えています。

上島次長：公立で認定こども園化にするには多くの職員が必要となり、人材確保が大きな課題です。三田、三輪、松が丘を統合して認定こども園化する場合、三田地域はこどもが多くニーズがあります。三輪地域は駅前という立地条件やマンション建設もあるので、民間という手法なら幼稚園を残せるのではないかと。事業者の参入が望めるのではないかと。公立幼稚園でとなると3つの地域で1園の認定こども園となり、三輪地域に残すことは難しいので、今回提案させていただきました。

大野教育委員：三輪幼稚園の説明会で不安があった取り組みの継続について、民間事業者の活用でも一定程度継続できるとのことですが、具体的なことをお聞かせください。資料の7ページの市の考え方で「三輪幼稚園の良さや伝統が引き継がれるような努力はしていきたい」とあります。小学校との連携、情報連携は三田市の取り組みの良さでもありますので、個人的にはそこを継続、発展していただきたいです。

神影課長：幼稚園や保育園も小学校との連携に取り組まれていると聞いています。条例で、小学校と

の接続、地域との連携、配慮の必要なこどもの受け入れは義務となっています。職員の体制が整っていない場合は、別の園で受け入れられないかの調整を行っていますので、民間では配慮の必要なこどもを受け入れられないということはありません。

地域との連携については、老人クラブが熱心に連携されている地域、PTAなどが熱心に連携されている地域もあり、連携は可能です。

大野教育委員：制度的枠組みの変更でできることが限られてくるのかと思い、どのような形で継続が図れるのかをおたずねしました。

もう1点。民間事業者の活用において、人材確保以外に三田に向くようなメリットはありますか。差し支えない範囲で教えてください。

神影課長：公立幼稚園も私立幼稚園も教育要領に則って、こどもの主体性や遊びを通じた教育をすすめています。公立はそれを一番大事にしながらすすめています。民間はプラスアルファの取り組みをしています。例えば早期教育(習い事)を園で行う、園独自の取り組みを行うなど。事業者選定にあたっては、十分に情報を集めながら検討をすすめていきます。

上島次長：三輪地域の8割の人が三輪幼稚園以外を選んでいます。保育ニーズだけではなく民間のプラスアルファのサービスで選ぶ人が多いのではないかと意見が、意見交換会の中でもありました。そこを期待している人が多いのではないかと感じています。

大野教育委員：メリット、デメリットと関わってご説明いただきありがとうございます。この後も可能な限り丁寧に調べをすすめ、市民と共有しながら検討していくことを大切にしてください。

三木教育委員：三田市も少子化や働く親のニーズに応えられる、みつば幼稚園、ありまふじ幼稚園がスタートしましたが、資料から、公立の幼稚園の良さをすごく感じておられ、しっかりとした取り組みをされていると思いました。保護者や地域の方々の現在の様子を教えてくださいたいです。

民間の認定こども園や幼稚園は、公立幼稚園との交流があるのでしょうか。民間のノウハウを公立幼稚園に共有されたり、公立のインクルーシブル教育や支援の必要な子への配慮などのきめ細やかな取り組みを、民間幼稚園に共有されていますか。

神影課長：みつば幼稚園で地域住民との交流時に、「統合前は不安もありましたが、知り合いが増え、交流範囲が広がったことで、メリットを感じている」との意見を聞いています。ありまふじ幼稚園も、イベントに地域の人が集まれるようにしています。2園とも、閉園になった旧幼稚園で地域の就学前の保護者が集まれる交流事業や子育て支援の相談事業など、園を知ってもらう取り組みを行っています。

民間と公立の共有について、民間主導での連携の詳細は把握できていませんが、公立幼稚園は民間の保育園、認定こども園と積極的に連携を行っています。三輪幼稚園は園庭が広く、民間2園、公立1園のこどもたちが集まって、遊びや交流をしています。また、小学校にあがる前の5歳児を中心にみんなで給食を食べる取り組みを行っています。

公立幼稚園は教育要領に則った教育を中心に行っており、民間のノウハウを取れ入れるのは難しいですが、公立の良さを民間にわかってもらい、取り入れてもらえる機会になればと交流をすすめています。

上島次長：幼児教育の質の向上を私立幼稚園へ情報発信していくことは公立の役割であり、合同研修会を行っています。支援を必要とするこどもへの教育についても、公立が先進的な取り組みをすすめてきました。再編で人材を集約することにより、セーフティネットの役割を充実した取り組みにしていきたいと考えております。

三木教育委員：交流で質を高めていることがわかりました。ありがとうございました。

ルーベッシュ教育委員：三輪幼稚園に民間が入ることのニーズという話がありましたが、個人的にはニーズと予測は違うと考えています。ある一定の予測をもってニーズがあるだろうと判断されているのでしょうか。

上島次長：三輪地域は1学年約60名のこどもがいますが、約8割が保育園、他地域の認定こども園を利用しています。また、0歳から2歳対象の小規模保育施設が三輪地域に2施設あり、認定こども園化することにより地域内で完結できる体制ができます。駅に近く、今後もマンション建設が見込まれる地域ですので、ニーズはあると考えております。

ルーベッシュ教育委員：公立・民間それぞれの良さがあるかと思います。公立幼稚園の真価は、こども一人ひとりの心に深く寄り添う丁寧な保育と、こどもを真ん中に置いた一人ひとりを大切にする姿勢にあると感じています。小学校、中学校、高校、大学へと繋がる心身のベースが幼稚園だと思っています。それを理解してくれる民間事業者と、三田市が向きあえるのが一番よく、こどもにとって何が最善かという視点を真ん中において、すすめていただきたい。

もう1点、松が丘幼稚園の説明会の参加者が少なかったとのことですが、これで理解いただいたとすすめて大丈夫でしょうか。今後どのような対応をされる予定ですか。

上島次長：意見交換会の参加者に、参加されていない地域の方や保護者の思いをお聞きました。途中で園が変わるのは不安なので最初から別の園を考えている人もいる、地域も統合はやむを得ないという意見が多いと聞いています。ありまふじ幼稚園への統合という判断をしま

したが、今後も引き続き保護者や地域の方の意見を聞きながら、丁寧にすすめていきます。

ルーベッシュ教育委員：理解はいただいていると思いますが、人間には心情もあるので、最後まで丁寧に統合をすすめてください。

大野教育委員：平成29年から30年の三田市の市立学校園の在り方審議会に参加しました。市の培ってきた伝統、地域との連携も議論にあがりつつ、園児数の減少や保護者のニーズにこたえて、一定規模の集団への再編への方向性を答申しました。松が丘幼稚園は現状の園児数等の状況、幼児期に育てたい資質能力や社会性の芽生えからも、統合の方向性はやむを得ないとして一定程度理解できます。ただし答申の序文には、保護者、市民への説明を丁寧にさせていただきたいと盛り込まれています。説明ということでの理解、納得もそうですが、三田市が目指す教育の方向性を保護者や市民と共有することも大切にしてください。現地交流や小学校との交流、連携などを丁寧にすすめていただき、円滑な移行をお願いします。

加嶋教育長：三田市で公立幼稚園を民営化するのは初めてなので、いろんな疑問や心配があると思います。幼稚園の設置者が変わっても小学校との連携は大丈夫なのかという心配も出てくるとしますので、丁寧な説明をお願いします。

また、2園とも地域や保護者、たくさんの方との関わりや取り組みがあります。地域の方や、交流される方の気持ちを反映し、こどもたちを真ん中に、この園に入ってよかったと思える園になるようしてください。

田村市長：三田市内の民間の幼稚園や保育園は、全国と比べて保育士が集まっていますが、全国的には保育士不足で、公立から民間へ運営を移行する流れがあります。三輪地域は立地条件もよく、事業者を公募すれば関心は高く、持続可能な保育事業を行っていけると思います。

本日皆様からいただいたご意見を参考に、保護者や地域への説明を丁寧に行いながら、検討をすすめていきます。